

ハート・オブ・ゴールド



vol.21

2009年7月1日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局
本部 〒701-1213 岡山市北区西辛川872-2
T&F 086-284-9700
メール:hginfo@hofg.org

URL : <http://www.hofg.org/>



カンボジア体育の夜明け

JICAプロジェクトマネージャー 山口 拓

これまで当会は5年毎の中期計画に沿って段階的な支援活動を展開してきました。開始当初から続くマラソン事業という柱から分岐したスポーツ支援は「スポーツを通じた青少年・指導者育成の祭典」事業へと進展し、5年の歳月を経て本事業に発展しています。

そのJPPフェーズⅠはカンボジア教育省の行政官を育成する形で3年間に亘って実施されました。その成果としては、カンボジア国家樹立以来初となる小学校体育指導要領体育編の新訂、挿絵や具体例を盛り込んだ指導書最終案の作成を実現するまでに至っています。

今後は、作成された指導書を使って全国的な普及活動へと歩を進めることとなりましたが、他の教科と違って体育科教育に関してはこれまで支援の手が及ばず、0からの普及を余儀なくされることになります。そこで、まずカンボジアの全24州を5ブロックに分けてブロック毎のリーダー州を設置。そのリーダー州に属する小学校2校と小学校教員養成校1校をモデル州として、ブロック毎の指導を行う計画を立てています。

計画の第1段階では、如何にして体育科の普及を行うべきかについて検討するために、州教育局の行



左からJICA/NGOデスク、HGプロマネ、JICAカンボジア所長、前教育大臣、学校体育局長、学校体育副局長

政官と小学校教員養成校の校長を招いた協議会を実施します。

計画の第2段階では、それらのブロックを指導して回るナショナルトレーナー(以下NT)を育成するために、当会のプロジェクトマネージャーは勿論のこと、日本的小学校で体育の研究指導会を行う現役

小学校教員を派遣し、NTを認定します。

計画の第3段階では、認定NTによる「指導会の実施」、「モデル校のモニタリング調査」と「フォローアップ指導」を行い、最終的にモデル校の教員がブロック州の教員を招いた研究授業を行うことになります。

これまで子供たちの顔が直接見えない活動を地道に続けていましたが、今後はやっと支援の最終受益者である子どもたちを観察することが出来そうです。

この事業では、日本体育大学大学院/高橋先生、筑波大学/岡出先生を始め、多くの方に力を借りしながら事業を進めています。会員の皆様、これからも応援の程、宜しくお願いします。

AWHM 2009は、2009年12月6日（日）開催。ツアー参加者募集中！

新チャイルドケアセンター

カンボジアでは、極貧で生死の境をさまに家庭に対しても、親戚や地域の人々の支援がなければ、そのまま飢え死にするのが現実である。NCCCにおいては、農村における最貧困家庭の子女を受け入れ、養育教育し職業訓練を施す活動を行っている。貧困家庭においては、金のないことはそのまま無能であることの証しであり、自分たちの厳しい境遇は自分自身の無能力の故であるという世間の差別と偏見を受け入れざるを得ない状況にある。

センターに受け入れられることで、子どもたちの生存権が守られるだけでなく、病気等の際にも必要なケアを受け、基本的な教育も施される。



2006年度の男子寮（写真左）に続き、2007年度には女子寮（右）が完成した。8名のスタッフが、大隅氏の技術指導を受けながら建築。

岡山旭ライオンズクラブと日本国際協力財団などの支援によって完成



オープニングセレモニーの
岡山旭ライオンズの皆様

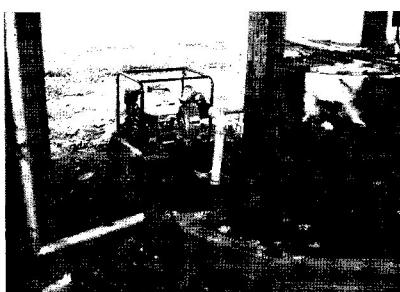
日本国際協力財団の方に
アプサラダンスを披露

岡山旭ライオンズ45周年記念事業として、国際ライオンズ（LCIF）からの協力のもと、孤児達が技術力を身につける「生きる希望」を与える事業として支援して頂きました。

また、日本国際協力財団は、昨年の男子寮の支援に引き続き、女子寮支援を頂きました。両団体は、完成した女子寮を訪問し交流されました。

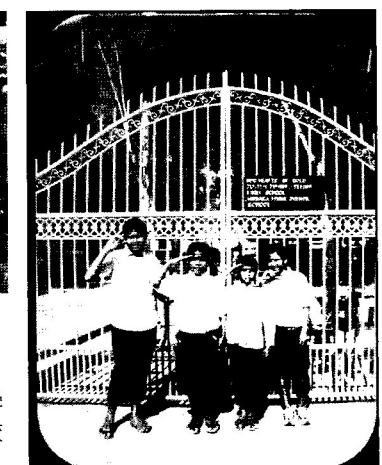
チエイ小学校への支援 続々と

おかやま山陽
高校インターハイ
クトクラブでは、チエイ小学校スポーツ屋外
ハウス施設建築活動やNCCC
(チャイルドケアセンター)での交流活動を行った



↑ 倉敷平成ライオンズの支援でチエイ小学校の給水ポンプが完成した

順天中・高等学校、穂高西中学校の支援により、チエイ小学校の門柱を新しく設置 →



HG むつみ日本語教室

日本の学校との交流事業では、これまで手紙のやりとりや物資の支援などを受けてきたが、昨年度は岡山学芸館高校生が現地を訪問、交流を深めた。この活動は、両国の子ども達の具体的な異文化理解、国際理解となっており、お互いの友情を育んでいる。



左野勝司様より、大型液晶テレビ、ビデオデッキ、大型発電機一式をいただき、益々教育環境が整ってきている。

3人目の留学生

3人目の留学生として2009年4月より一年間、ゲ・チョンパーが岡山学芸館高等学校2年生に同校の支援を受けて留学。



勉強のほかに、クラブ活動でも伝統的日本文化の和太鼓部、筝曲部に入部し活躍。

ハート・ペアレン特（留学里親）の支援のもとに充実した学園生活を過ごしている。

私は2002年から、日本日本語教師として日本語を勉強させて、6年が経ちました。私は3月25日に日本に来ました。今は皆様のお蔭で、3ヶ月のカンボジアからの留学生として、岡山学芸館高等学校で勉強しております。私の両親は私が日本に留学することができてとても喜んでいます。色々と教えてもらおうがござります。今、学芸館高校で勉強と部活動を毎日楽しんでやっています。

私の今年の目標は、日本語能力試験馬鹿の2級合格すること、もちろん日本語を上達させることです。そして特に放課後たくさん作って仲良くなっています。毎日、国際教育センターで2級の問題を勉強しています。将来の夢は高校の先生になります。また、カンボジアへリードして高校3年生に合格して大学に入りたいと見ております。また、チャンスがあれば、日本に来て大学で先生になるための勉強をしてみたいと思っております。これからも、応援よろしくお原意いします。

チョンパーさんがペアレン特さんへ宛てた
手紙より抜粋

カンボジア人ランナー 今年もかすみがうらマラソン大会に

4月19日(日)、「第19回かすみがうらマラソン大会(茨城県土浦市)」が開催された。アンコールワット国際ハーフマラソン(AWHM)2008に参加したランナーのソ・ワンタ氏(ハーフ)、スン・サム氏(義手)の2名が有森賞として招待ランナーに選ばれた。この大会にカンボジアから招待参加するのは、今年で3回目。大会当日の朝は、風が冷たく強かったため、両名とも震えていたが、その後快晴となった。参加者が2万4000人を超える国内3位の大規模マラソン大会で、会場は人山でごった返していた。開会式での「ありがとう宣言」の大役を果たし、とともに10マイルを完走した。引率者としてAWHM実行委員会事務局長のセム・ファラ氏がカンボジアから同行。大会運営など非常に興味深く見て廻り、今後のAWHMの参考にする。



「ありがとう宣言」



日立建機株式会社
土浦工場にて

主催：かすみがうらマラソン大会実行委員会、土浦市、日本盲人マラソン協会、毎日新聞社ほか。
特別協賛：日立建機株式会社、J:COM茨城

大会では、実行委員会をはじめ、日立建機株式会社土浦工場、駒沢大学OB会など多くの方々に温かく迎えていただきました。また、来日期間中は、東日本支部のボランティアスタッフの方々に、大会でのサポート、通訳、観光、食事などあらゆる面で大変お世話になり、また、HG飯田クラブから資金援助をいただきました。大光電機(株)、ステファニー化粧品、浦安ロータリークラブの皆様にも日頃のご支援のお礼を述べる機会をいただき、3名とも、有意義で素晴らしい来日であったことに感謝して帰国の途につきました。



取材を受けるワンタさんとサムさん(中央)

上野で大笑い HG 東日本支部交流会

4月19日(日)、恒例の東日本支部交流会を「ホテル丸谷・和食ダイニング松」(上野)で行った。かすみがうらマラソン大会に参加のため来日していたセム・ファラ氏、ソ・ワンタ氏、スン・サム氏ら3名、有森代表、田代事務局長をはじめ、総勢50人を越える出席者で、会場は満員となった。有森代表の挨拶、カンボジアからのゲストの挨拶とお礼、出席者ひとり一人の自己紹介や想い、そして、会を最高に盛り上げてくれたホテル丸谷さんは恒例の宴会芸「南京玉すだれ」と「獅子舞い」。



皆、お腹の底から笑い、より一層のHG支援を誓いました。

活動便り

2/15 HG チャリティ
耐寒登山 (HG 西日本支部)



- 3/1 篠山ABCマラソン
- 4/19 かすみがうらマラソン
- 4/19 HG 東日本支部交流会
- 4/27 政令指定都市移行記念シンポジウム
「スポーツが街を元氣にする!」
(岡山)
- 5/17 「東京ドラゴンボート大会2009」
- 5/17 Arimori Cup マラソン大会
(むかわ町)
- 6/25 理事会・総会・交流会 (岡山)